

伊勢市立小中学校の適正規模等について
(中間報告)

平成21年11月20日

伊勢市立小中学校の将来構想に係る検討委員会

目次

はじめに	1
伊勢市立小中学校の現状	2
1 児童生徒数の推移	
2 学校規模の現状	
学校規模と教育活動における課題	3
1 小規模校の特性	
2 適正規模化の必要性	
小中学校の適正規模・適正配置のための基本的な考え方	5
1 適正規模・適正配置の理念	
2 望ましい学級の人数	
3 望ましい学級数	
4 望ましい通学距離	
参考資料	8

はじめに

学校は、知識や技能などの習得と併せて、子どもたちが集団の中で学習や生活しながら、様々なことを学ぶ場であり、その経験を通して豊かな人間関係を築き、社会性を身につけていく場でもあります。そのため学校は、適正規模を保つことが大切ですが、近年の少子化の進行により、小規模化が進んでおり、将来的に教育環境への様々な課題が生じることが考えられます。

現在、伊勢市の児童生徒数は、30年ほど前に比べ半数近くにまで減少しています。しかし、小中学校の数は当時のままであるため、以前は児童数1,200人であった学校が400人と3分の1まで減少したり、学級数が25学級で各学年4学級編制を越えるような規模であった小学校が、学年によっては1学級編制となっています。また、全学年1学級ずつといった小規模な学校も増加しています。

このような中で、本検討委員会は伊勢市教育委員会から、伊勢市立の小中学校の子どもたちにとって望ましい教育環境を整備する意味で全市的な観点から、「伊勢市立小中学校の適正な学校規模及び適正配置のあり方」について検討を行うよう依頼されました。

伊勢市の児童生徒数の推移をみながら、子どもたちにとって十分な教育効果をもたらす適正な学校規模について、これまで5回にわたり検討を行ってまいりました。今回、小中学校の適正規模について、検討結果を整理しましたので、中間報告といたします。

今後は、この中間報告の基本的な考え方にに基づき、適正配置のあり方について検討するとともに、適正配置を図るための具体的方策について整理し、平成22年度中には提言を行う予定です。

伊勢市立小中学校の現状

1 児童生徒数の推移

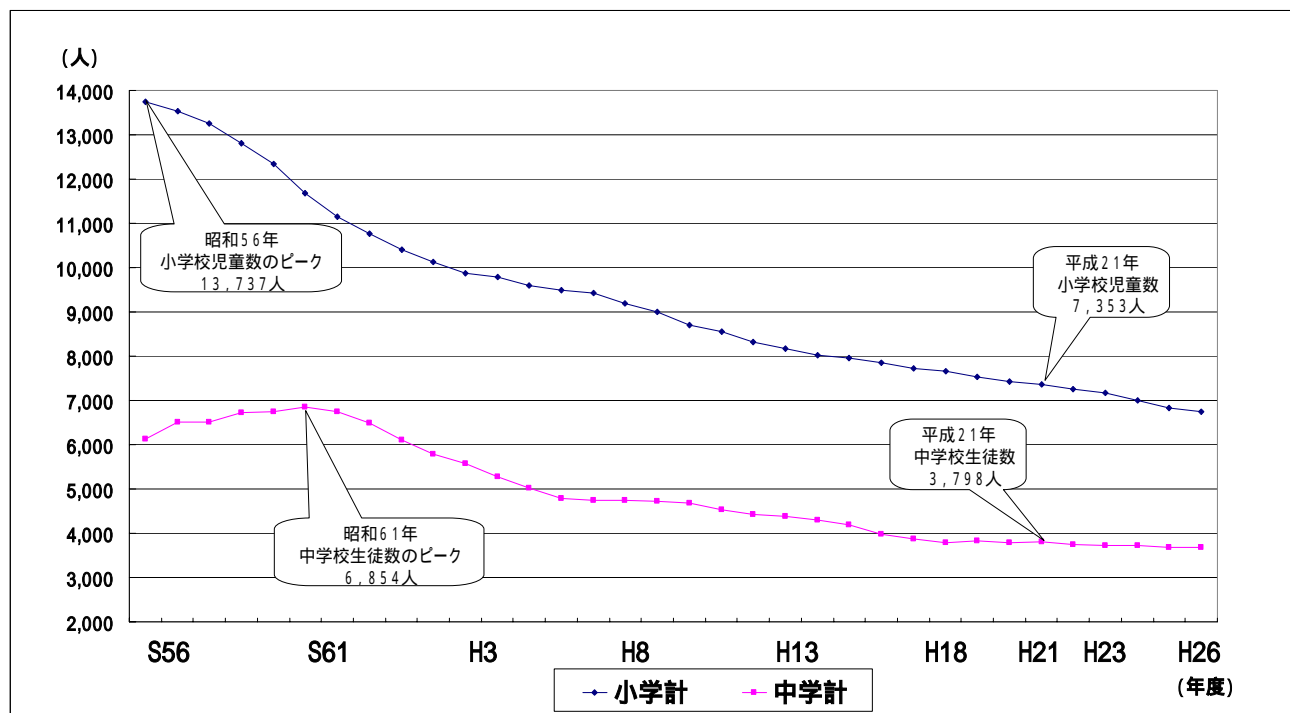
小学校の児童数は、第2次ベビーブーム（昭和46年～49年）の影響により、昭和56年にはピークを迎え13,737人の児童が在籍していた。その後、少子化の進展により平成21年5月1日現在、7,353人まで減少している。この傾向は今後も続くと思われており、少子化の影響による学校の小規模化が進むことにより、学校教育に及ぼす様々な影響が心配される。

また、中学校の生徒数についても、小学校の児童数の減少と同様の傾向を示しており、昭和61年の6,854人をピークとして年々減少し、平成21年5月には3,798人となっている。（P9参照）

伊勢市立小中学校の児童生徒数の推移

区分	S56	S61	H3	H8	H13	H18	H21	H23	H26
小学校計	13,737	11,672	9,867	9,193	8,160	7,669	7,353	7,165	6,754
中学校計	6,125	6,854	5,566	4,750	4,379	3,786	3,798	3,718	3,677

〔平成22年度以降は、伊勢市住民基本台帳から予想される数値である。また、例年、50人前後の私立中学校進学者数が含まれている。〕



2 学校規模の現状

学校規模については、小学校は学校教育法施行規則第41条において、「小学校の学級数は12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。」とされ、中学校も同規則第79条において、「第41条の規定は中学校に、これを準用する。」としている。

平成10年度と平成21年度の伊勢市立小中学校の学級数を比較すると、小学校においては、

12学級以上の学校数が12校から11校へ1校減少している。また、中学校においては、6校から4校へ減少するとともに、それぞれの学校の学級数も大幅に減少している。

学校別に見ると、宮山小学校と厚生中学校がそれぞれ1学級増加し、二見小学校は4学級増加している。厚生小学校と倉田山中学校がそれぞれ6学級減少し、早修小学校、明倫小学校、宮川中学校、五十鈴中学校の4校がそれぞれ5学級減少、大湊小学校、北浜小学校、港中学校の3校がそれぞれ4学級減少するなど、18校で学級数が減少している。(住宅団地の開発等により4学級増加した二見小学校は、各学年80人前後という規模で2学級編制と3学級編制の境であるため、児童数の増加は全校で448人から495人と47人増加したのみである。)

[平成10年度と平成21年度の伊勢市立小中学校の学校規模の比較]

学級数	3	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25以上	
小学校	平成10年度		佐八 豊浜東 東大淀 上野 今一色	進修 豊浜西		宮山	大湊 四郷	早修 北浜	浜郷 城田	神社 二見	中島	修道	明野		明倫 厚生 御園	有緝			小俣			
	平成21年度		早修 大湊 佐八 豊浜東 東大淀 上野 今一色	進修 四郷 豊浜西 北浜		宮山	中島	修道 厚生 神社 浜郷 城田	明倫				明野	二見	有緝 御園		小俣					
中学校	平成10年度	沼木	城田	豊浜 北浜		二見 御園		厚生		宮川		港 五十鈴		倉田山 小俣								
	平成21年度	沼木	豊浜 北浜 城田			二見 御園 宮川		五十鈴 倉田山 港	厚生		小俣											

(40人学級編制として学級数を比較。特別支援学級数は含まず)

***少人数学級編制**

1学級の児童生徒数を少なくして基本的な生活習慣や基礎・基本の学力の定着を図ることを目的に三重県独自で行っている少人数教育推進事業(小学校1・2年生での30人学級、中学校1年生での35人学級)による学級編制実施学級は、小学校で5校7学級(有緝2、明倫1、小俣2、明野1、御園1)、中学校で4校4学級(厚生1、宮川1、五十鈴1、小俣1)あり、上記表より実際の学級数は増加している。

また、この他にも少人数指導のために教職員配置基準を超えて配置された教職員を活用するなどして、小学校で8校9学級、中学校で6校6学級が40人の学級編制基準を下回る学級編制を実施している。

学校規模と教育活動における課題

1 小規模校の特性

学校規模については、その規模の大・小によって考えられるメリットとデメリットを多様な角度から検討し、児童生徒にとって十分な教育効果が得られるように配慮する必要がある。検討委員会では、学年が1学級の小規模校の良さとして、児童生徒によく目が行き届く、きめ細かな指導が行いやすいなどの意見が出された反面、友人関係が固定化される、学級内での序列が出来てしまうとずっと引きずってしまう、仮にいじめにあった時に新しい友人関係に救いを

求めることが難しいなど、人間関係を心配する意見が出された。

小規模校が学校の教育活動に与える影響について、その特性をまとめると次の表のように考えられる。

【小規模校（学年が1学級の学校）のメリット・デメリットと考えられる点】

	メリット	デメリット
学習面	<p>児童生徒一人ひとりに目が届きやすい。</p> <p>きめ細かな指導が行いやすい。</p> <p>生徒の様子をよく知り、地域と連携をして特色ある学校づくりを進めやすい。</p> <p>学校行事や部活動等において、児童生徒一人ひとりの活躍する機会を設定しやすい。</p> <p>学習場面において、発言する機会が増える。</p>	<p>切磋琢磨する機会が少ない。</p> <p>運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。</p> <p>教職員の人数が少なく、9教科(全教科)を担当する教職員がそろわない。</p> <p>学年別や教科別の教職員同士で、学習指導等についての相談・研究・協力などの機会を設定しにくい。</p> <p>生徒の興味関心に対応できるだけの部活数がそろわないため、色々な体験ができにくい。</p>
生活面	<p>生徒指導面において、目が届きやすく、指導が徹底しやすい。</p> <p>学年を超えた活動を設定しやすい。</p> <p>子ども一人ひとりの顔が分かり、教職員全員が個々の児童生徒に関わりやすい。</p> <p>児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。</p> <p>個々の児童生徒の配慮の必要な点について、共通理解が図りやすい。</p>	<p>人間関係の面で、一度固定化した関係が改善されにくい。</p> <p>新しい友人関係を構築する機会が少ない。</p> <p>1学年を一人の教職員で見ているため、指導について協力したり相談することができにくい。</p> <p>クラス替えがないと、新しい学年になったときに気持ちを切り替えにくい。</p> <p>児童生徒数の男女比がアンバランスになりやすい。</p>
その他	<p>保護者や地域社会との連携を図りやすい。</p>	<p>一人の教職員に複数の校務分掌が集中しやすい。</p>

2 適正規模化の必要性

学校教育に求められているのは、基礎的・基本的な内容を確実に身につけさせ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などの「生きる力」をはぐくむことである。この「生きる力」をはぐくむには、一定規模の集団の中で教育活動を行うことが有効であると考えられる。

一方、学校規模が大きくなりすぎると、授業における特別教室や屋内運動場などの施設の使用に支障が生じたり、部活動等の活動場所にも制約を受けやすい。検討委員会では、次のような観点から適正な学校規模の必要性をまとめた。

児童生徒は、集団生活の中で多様な価値観を持つ仲間と交流し、豊かな人間関係を築きながら主体性や社会性を身につけていく。そのためには、集団が一定の大きさの規模をもつことが望ましい。

クラス替えは、新たな人間関係の中で集団づくりを体験させ、自分自身を再発見するとともに、個性を伸ばす機会となる。このため、各学年に複数の学級数を確保することが望ましい。個に応じたきめ細かな指導をするための少人数学習や習熟の程度に応じた学習など、表現力、思考力、判断力を養うための多様な学習形態を取り入れた教育を可能にするためには、ある程度の学校規模が必要である。

小学校のクラブ活動や中学校の部活動は、児童生徒の個性や能力を伸ばす上で大きな役割を果たしている。児童生徒が興味や関心に応じて多様なクラブ活動・部活動の中から選択を可能にするためには、ある程度の児童生徒数と教職員数を確保することが必要である。

各教科の担当教員や同学年の担任が複数で確保され、互いに研究・協議を行いながら指導の充実を図ることが望ましい。また、教職員の年齢構成や男女比などバランスよく配置し、円滑な学校運営を行うためには、ある程度の学校規模が必要である。

小中学校の適正規模・適正配置のための基本的な考え方

1 適正規模・適正配置の理念

学校の適正規模・適正配置は、次代を担う子どもたちに最良の教育環境・教育条件を整備することを基本に考えることが重要である。伊勢市のめざす子ども像である、「心豊かでたくましい子ども」の育成を目指し、子どもがかがやき学びあう学校づくりをするために、適正規模や適正配置を考えなければならない。

2 望ましい学級の人数

1学級の児童生徒数については、法令に特別の定めがある場合を除き、40人以下とし、特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りではないとされている。

教職員がすべての子どもに対してきめ細かな指導を行いやすくするために、学級の人数を少なくすることは大切なことである。しかし、必要以上に少なくなると、学級内で切磋琢磨する機会も少なくなることから、ある程度の人数を確保する必要がある。検討委員会では、次のような考えから、1学級の人数は30～35人が望ましいという結論に至った。

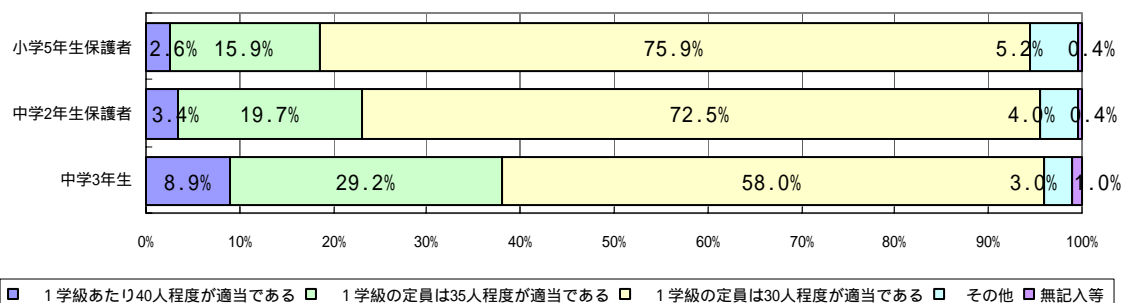
多様な意見を出し合い、考えを深め合う学習活動の展開がより期待できる。

学級における班活動や児童・生徒会活動、特別活動など、いろいろな場面での活動を通して、子どもの人間関係がより深まることが期待できる。

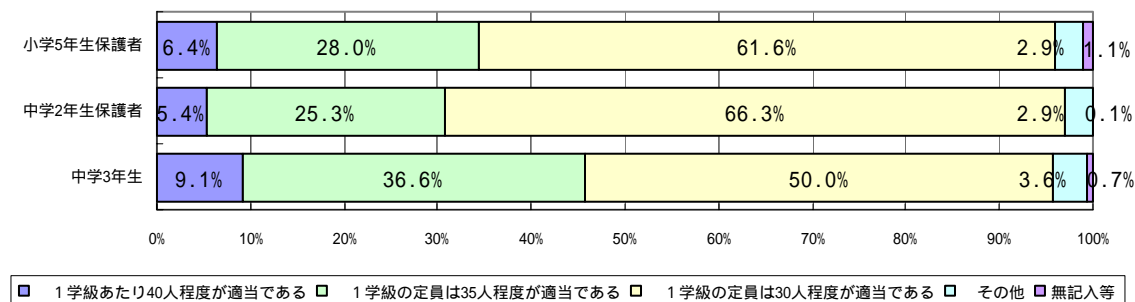
体育でのゲームや球技、音楽の合唱や合奏の学習が円滑に行うことが期待できる。

【アンケート結果から抜粋】

問3(1) 小学校の1学級の人数についてどれくらいが望ましいと思われますか。



問3(2) 中学校の1学級の人数についてどれくらいが望ましいと思われますか。



望ましい1学級あたりの児童・生徒数

小中学校の1学級の児童・生徒数は、30人～35人を上限として、成長段階に応じて柔軟に対応する。

3 望ましい学級数

小中学校の学級数については、「学校教育法施行規則」において、小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のある時はこの限りでないとして、中学校においてもこれを準用している。

学校は、知識や技能などの習得と併せて、子どもたちが集団の中で学習や生活をしながら、様々なことを学ぶ場であり、その経験を通して豊かな人間関係を築き、社会性を身につけていく場でもある。伊勢市立の小中学校の子どもたちにとって望ましい教育環境を整備する意味から、検討委員会では次のような理由で、小学校の学級数は、各学年2～3学級、中学校は各学年4～6学級が望ましいとの結論に至った。

人間関係に配慮したクラス編制ができやすく、習熟の程度に応じた学習等、多様な学習や活動を行うためには、小学校では各学年2学級以上が望ましい。

中学校においては、野球・サッカー・バレーボール・バスケットボールなどの運動部やブラスバンド・合唱・美術などの文化部が数多くあり、それらの中から生徒が選択できる学校規模としては、1学年100人以上の生徒数が必要である。

学年別や教科別の教職員同士で、学習指導等についての相談・研究・協力などの機会を設定しやすくするための十分な教職員数を確保することが必要である。

中学校の場合は教科担任制であることから、同じ教科を担当する教職員を複数配置できることが望ましい。

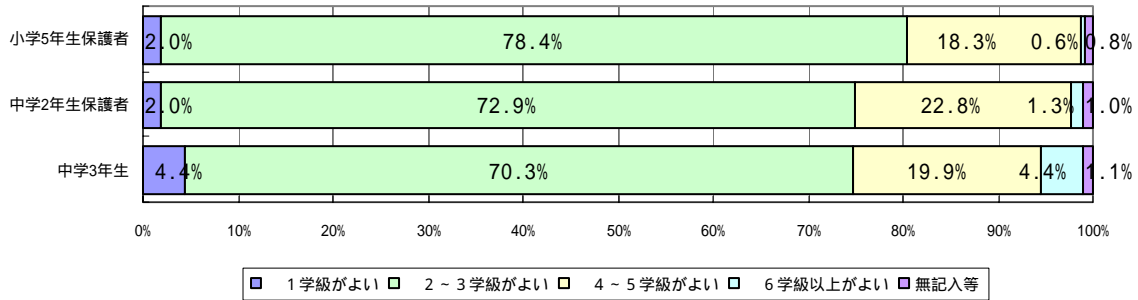
中学校においては、教科によって2学級の男女を合わせて学習集団を編制する場合があるので、各学年偶数学級の編制が望ましい。

小学校においても、学校行事や諸活動で集団の力が発揮され、学校の活性化が図れるようにするには、学年複数学級が望ましい。

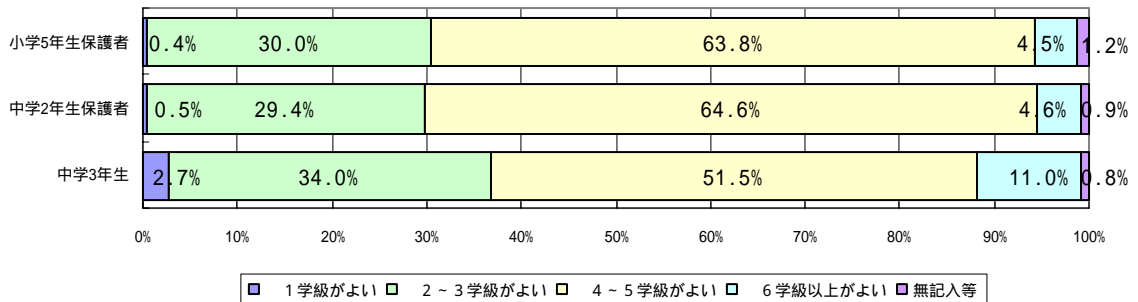
中学校区には、複数の小学校があることが望ましい。

【アンケート結果から抜粋】

問4(1) 小学校の1学年あたりの望ましい学級数は、どれくらいが望ましいと思われますか。



問4(2) 中学校の1学年あたりの望ましい学級数は、どれくらいが望ましいと思われますか。



望ましい学級数

小学校の学級数は、12～18学級が望ましい（各学年2～3学級）

中学校の学級数は、12～18学級が望ましい（各学年4～6学級）

4 望ましい通学距離

現在の市内小中学生の通学距離は、小学校の徒歩通学では、最大4.0km、バス通学では、8.7kmである。また、中学校の徒歩通学では最大3.0km、自転車通学では、6.0km、バス通学では、10.5kmである。望ましい通学距離を考える場合、単なる距離だけでなく、登下校の安全などの観点や交通事情についても考慮する必要があることから、校区の再編や学校の適正配置等の検討と併せて考えることとする。

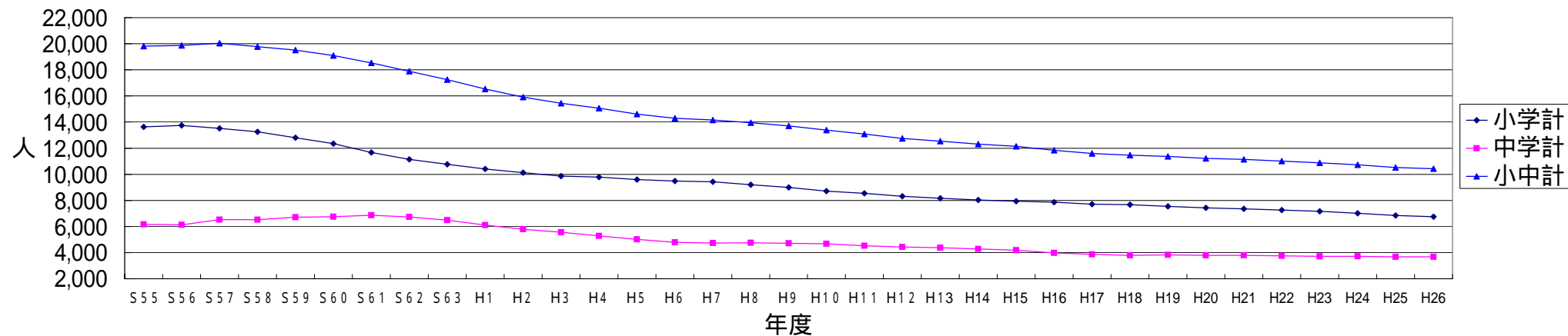
参 考 資 料

年度別 伊勢市立小中学校 在籍児童生徒総数一覧	P 9
小学校別児童数・中学校別生徒数の推移	P10
学校規模等について考えるアンケート（保護者用・中学生用）質問紙	P11～14
学校規模等について考えるアンケート結果（調査の概要、質問別集計）	P15～31

年度別 伊勢市立小中学校 在籍児童生徒総数一覧

区分	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
小1年	2,364	2,275	2,017	1,958	1,927	1,852	1,651	1,707	1,650	1,633	1,685	1,569	1,571	1,482	1,499	1,549	1,445	1,383	1,300	1,357	1,308	1,351	1,314	1,298	1,253	1,226	1,235	1,240	1,209	1,191	1,172	1,125	1,075	1,058	1,133
小2年	2,302	2,367	2,270	2,017	1,946	1,925	1,861	1,660	1,704	1,646	1,627	1,675	1,572	1,582	1,489	1,500	1,553	1,435	1,379	1,315	1,343	1,313	1,350	1,316	1,299	1,250	1,229	1,233	1,225	1,216	1,191	1,172	1,125	1,075	1,058
小3年	2,363	2,295	2,369	2,258	2,014	1,965	1,923	1,852	1,670	1,696	1,635	1,638	1,677	1,582	1,594	1,493	1,514	1,555	1,442	1,383	1,309	1,346	1,309	1,354	1,299	1,294	1,255	1,221	1,233	1,226	1,216	1,191	1,172	1,125	1,075
小4年	2,209	2,362	2,290	2,364	2,252	2,012	1,955	1,935	1,854	1,667	1,692	1,636	1,637	1,679	1,583	1,598	1,505	1,512	1,551	1,440	1,372	1,324	1,350	1,310	1,357	1,296	1,295	1,257	1,216	1,235	1,226	1,216	1,191	1,172	1,125
小5年	2,221	2,213	2,368	2,289	2,369	2,248	2,024	1,964	1,925	1,836	1,654	1,694	1,635	1,630	1,693	1,591	1,589	1,511	1,510	1,545	1,443	1,378	1,327	1,342	1,310	1,359	1,296	1,287	1,261	1,221	1,235	1,226	1,216	1,191	1,172
小6年	2,174	2,225	2,212	2,369	2,292	2,346	2,258	2,033	1,967	1,932	1,831	1,655	1,688	1,636	1,631	1,694	1,587	1,601	1,521	1,509	1,538	1,448	1,381	1,327	1,340	1,290	1,359	1,297	1,287	1,264	1,221	1,235	1,226	1,216	1,191
中1年	2,177	2,148	2,192	2,174	2,329	2,235	2,289	2,208	1,984	1,928	1,871	1,789	1,618	1,607	1,571	1,561	1,625	1,531	1,538	1,466	1,429	1,486	1,384	1,323	1,276	1,284	1,231	1,301	1,251	1,233	1,264	1,221	1,235	1,226	1,216
中2年	1,808	2,177	2,142	2,192	2,192	2,320	2,240	2,296	2,204	1,983	1,928	1,865	1,794	1,619	1,599	1,570	1,561	1,622	1,525	1,538	1,459	1,432	1,480	1,383	1,320	1,268	1,287	1,236	1,303	1,257	1,233	1,264	1,221	1,235	1,226
中3年	2,189	1,800	2,183	2,153	2,195	2,196	2,325	2,235	2,297	2,205	1,989	1,912	1,865	1,797	1,627	1,605	1,564	1,563	1,621	1,530	1,541	1,461	1,425	1,482	1,383	1,319	1,268	1,290	1,239	1,308	1,257	1,233	1,264	1,221	1,235
小学計	13,633	13,737	13,526	13,255	12,800	12,348	11,672	11,151	10,770	10,410	10,124	9,867	9,780	9,591	9,489	9,425	9,193	8,997	8,703	8,549	8,313	8,160	8,031	7,947	7,858	7,715	7,669	7,535	7,431	7,353	7,261	7,165	7,005	6,837	6,754
中学計	6,174	6,125	6,517	6,519	6,716	6,751	6,854	6,739	6,485	6,116	5,788	5,566	5,277	5,023	4,797	4,736	4,750	4,716	4,684	4,534	4,429	4,379	4,289	4,188	3,979	3,871	3,786	3,827	3,793	3,798	3,754	3,718	3,720	3,682	3,677
合計	19,807	19,862	20,043	19,774	19,516	19,099	18,526	17,890	17,255	16,526	15,912	15,433	15,057	14,614	14,286	14,161	13,943	13,713	13,387	13,083	12,742	12,539	12,320	12,135	11,837	11,586	11,455	11,362	11,224	11,151	11,015	10,883	10,725	10,519	10,431

年度別 在籍児童生徒総数



【小学校別児童数・中学校別生徒数の推移】

学校名 \ 年度	昭和56年	昭和61年	平成3年	平成8年	平成13年	平成18年	平成21年	平成23年	平成26年
進修	392	338	294	230	203	203	184	172	152
修道	962	685	580	531	413	389	374	346	298
有緝	1,309	1,015	801	706	605	545	585	566	505
早修	625	462	383	335	269	218	153	119	123
中島	888	663	562	476	395	325	314	305	267
明倫	1,064	778	615	603	510	418	400	386	348
厚生	1,201	894	663	605	529	428	400	344	294
神社	468	521	453	441	375	362	380	388	397
大湊	424	381	267	257	230	187	173	167	135
佐八	165	164	171	159	132	133	139	130	94
宮山	160	205	172	240	248	298	251	238	218
浜郷	456	434	426	368	336	348	354	348	360
四郷	418	402	343	296	239	212	172	190	175
豊浜東	270	245	206	192	179	125	104	94	95
豊浜西	308	341	323	236	216	230	199	189	161
北浜	341	323	290	281	253	223	218	180	154
東大淀	207	196	181	191	165	151	134	144	163
城田	553	498	415	376	362	400	350	365	379
上野	145	183	175	178	147	114	83	87	74
二見	744	639	478	461	453	451	495	512	463
今一色	228	147	136	157	118	101	85	71	88
小俣	1,085	908	819	774	710	671	672	672	694
明野	579	595	565	561	503	533	533	577	562
御園	745	655	549	539	570	604	601	575	555
合計	13,737	11,672	9,867	9,193	8,160	7,669	7,353	7,165	6,754

学校名 \ 年度	昭和56年	昭和61年	平成3年	平成8年	平成13年	平成18年	平成21年	平成23年	平成26年
倉田山	1,101	1,122	815	650	622	457	407	398	437
厚生	658	656	528	395	392	448	474	455	409
宮川	811	804	594	503	459	367	325	344	293
港	539	722	638	600	509	424	405	407	422
豊浜	218	287	273	249	200	186	187	175	152
北浜	260	274	269	244	229	192	168	178	160
沼木	49	80	103	90	96	72	71	45	48
城田	252	299	253	186	187	183	211	194	168
五十鈴	805	880	677	588	497	373	394	372	370
二見	424	491	374	288	306	276	273	279	288
小俣	661	830	704	678	623	558	575	578	630
御園	347	409	338	279	259	250	308	293	300
合計	6,125	6,854	5,566	4,750	4,379	3,786	3,798	3,718	3,677